

# 教務だより

2015年9月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 「先送りタイプ」の克服

茗溪塾塾長 宇野 雅春

昨年の受験最終盤、突然人が変わったように S 君は頑張り始めました。一学期は部活動に追われ、塾に来てもくたくたの様子、授業中もふと気が付くと、眠ってしまっていたりしました。部活が終わったあと、スパートがかかると思いきや、なかなか勉強には気持ちが行かないようで、受験に対しての否定的な見解…すなわち「頑張っている学校に入ったところで何の意味があるの?」という感じ。冬期講習の時でさえ、ぐったりしたイメージは変わらず、よほど勉強が嫌いなのかと手をこまねいていたのですが、受験が始まった瞬間から急に目の色が変わってきました。短期間だったにもかかわらず、それまでの成績では絶対合格できないと思われた千葉の人気の私立で一校合格を取りました。本命は届かず、涙を流すくらいに口惜しがっていました。そして、本命への再チャレンジ…猛勉強が続き、今までの S 君とは全く別人の S 君がそこにはいました。何しろずっと怠けていたのですから、ほとんど最初からやり直して行くような勉強です。ただ目標がはっきりした S 君は、頑張り続けました。結局、第一志望よりはレベルが下がるとしても、かなりの人気校に合格していますので結果、公立高校も最上位にチャレンジすることになりました。それから猛勉強したことは言うまでもありません。

ただし、誰もが入りたい難関校です。直前まで全くそういう準備をしてこなかったのですから、結果は不合格です。S 君の悔しがる姿を見てとても残念でした。そういう力があるのなら、最初から目標を高く持って準備していたら、確実に合格できていたはずです。そういう方向性も何度も面談でしていたのに…。多くの受験生に同じ傾向があります。

これは「先送りタイプ」というものです。今年の4月に中2と小6の合同特訓で、「優先順位」を学習しましたが、覚えているでしょうか?忙しい日常を目的に向かって「成功」を掴む方法として「優先順位」があります。部活動や友達との遊び、スマホやゲームに多くの時間を割き、夏から頑張るからと言い訳しながら、一学期は、宿題すらこなさずという生徒は、夏もなかなか勉強に乗れず、体調を崩したり、勉強以外のことをやたら優先して、結局力をつけそこないます。何度注意されても、何度指摘されても、聴く耳を持たず…結果 S 君のように、直前に気が付くことになります。「受験」が必ず「ある」という事と自分にとって今最も大切な課題であるという事にです。

「先送りタイプ」の人は実は非常に忙しく見えます。なぜならいつも「緊急事態」に直面しているからです。「忙しくて大変だね!」とみんなに思われていたり、自分も思っています。でも本当にそうなのかというと、最初の「計画を立てる」とか「優先順位を決める」といったことに全く時間を使っていないことが多いのです。ぼんやりとしている時間やどうでもいい雑談、やらなくてもいい「付き合い」などには惜しげもなく時間を使います。だから緊急事態がやってくるのです。これは受験に限らずこれからの人生を歩いていく上でとても大切なことだと思います。この「優先順位」の考え方が身につかないと、いつもうまくいかないことを「人のせい」にしたり、自分の持って生まれた能力(親)のせいにしたりします。「依存」という自立前の状況です。受験に「自立」は必須です。

「先送りタイプ」は緊急の「泥沼」から一生這い出すことができないという宿命を背負います。受験をやり遂げた後も次の緊急事態が来るはずです。この受験を成功させることで「先送りタイプ」を克服するという事。9月ならまだ間に合います。

当然の「不合格」を「悔し涙で終わる受験」にしないという事…。自分の自分に対する責任を自覚するという事。それが大人への大きな一歩です。

まずは「TO DO LIST」を作るところからやってみませんか?